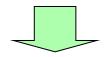
青森市中心市街地活性化基本計画(計画期間 19年2月~24年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- ○郊外における住宅地、商業地の開発
- 〇本州と北海道を結ぶ交流拠点として の役割喪失(S63、青函連絡船廃止)



〇中心市街地の人口減少

(S45:6,556人→H17:3,346人)

〇中心市街地の商業機能の衰退

空地·空き店舗率 H12:7.9%→H17:10.7%

商品販売額 S63:92,793百万円→H17:68,553百万円₂

〇除排雪費等の大きな行政コスト

「H16:31億2千万円、H17:23億3千万円

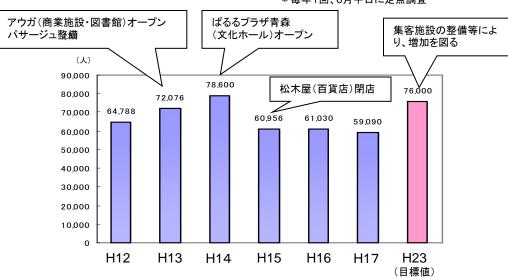
市全体の年間予算の約3%

【目標】

目標	指標	現況値(H17年)	目標値(H23年)
街の楽しみづくり	歩行者通行量	59, 090人	76, 000人
交流街づくり	年間観光施設入込 客数	696, 312人	1, 305, 000人
街ぐらし	夜間人口	3, 346人	3, 868人
中心商店街の 活性化	小売業年間商業 販売額	68, 553百万円	68, 553百万円
	空き地・空き店舗率	10.7%	8.8%

(歩行者通行量の動向と数値目標)

*毎年1回、6月平日に定点調査



日本有数の豪雪地帯であること、長期的な人口減少傾向にあること等の課題に対し、市長の強力なリーダーシップにより、長い時間をかけてコンパクトなまちづくりに対する市民の理解を得て推進。

青森市中心市街地活性化基本計画の事業概要



駅前において、分散しているバスターミナル機能の集約化、観光・交通案内所の設置等により、鉄道とバスの連携向上を含め、公共交通ネットワークの効率化。

(仮称)市民ホール整備事業

中心市街地外にある老朽化した市民ホールを廃止し、既存の文化施設を改装し、機能移転。

街なか住み替え支援事業

高齢者の街なかへの住み替えを促進するため、高齢者が郊外に所有する住宅を借り上げ、広い住宅を必要とする子育て世帯等に安価で貸し出すシステムの構築(全国都市再生モデル調査を活用)。





ねぶたの実物展示、製作 現場の公開等を行う施設 を整備。

隣接する既存の 広場(パサー ジュ)との一体的 活用を図るため、 新設ホテルの低 層階にカフェ、サ テライトスタジオ、 等を配置。



地区活性化事業

まちなかサポー ターズ事業(し かへらぁ~s) ○高齢者・障害 者の買物サポート、観光客の案 内等を行う学生 による活動。

※)津軽弁で「しか へる」とは「教える」 という意味